

通常展示「書物で見る 日本文学史」資料一覧 参考展示

	名 称	解 説	
	参考展示		
	中国文学と日本文学	<p>日本の文学は、古くから中国文学の影響を受けてきました。漢詩文を中心に、各時代において撰取の跡が見られます。奈良～平安時代は『文選【もんぜん】』が重んじられ、平安時代になると唐の白居易（白楽天）の『白氏文集』が広く受容され、後代に及んでいます。南北朝～室町時代は宋の蘇東坡・黄山谷の詩が流行し、中・晩唐詩の撰集『三体詩』が読まれ、五山詩をはじめ文学に投影しています。</p>	
	仏教と日本文学	<p>日本の文学史を語る時、仏教の影響は無視できません。経典では『法華経』や『浄土三部経』が広く読まれ、さまざまなジャンルに影響が及んでいます。平安時代中期に書かれた源信の『往生要集』は、末法思想に基づく浄土信仰と、それに根ざす文学の創作を支えました。説話集や往生伝の編纂も、中国の仏教書の『冥報記』『三宝感応要略録』『瑞応伝』や『法苑珠林』などを抜きにしては考えられないものです。</p>	
	出版と美術と文芸と —近世文学の広がり—	<p>出版の普及は、近世の文化と文学に広がりとお行きを与えました。ここではその豊かさの一面を、摺り物（俳諧一枚摺）・狂歌絵本・浮世絵に尋ねます。当時の出版の概況を窺うために、本屋の出版目録（書籍目録）も示します。摺り物は注文制作による非売品、その素朴なたたずまいも、歌麿による狂歌絵本や豊国による浮世絵の豪華さも、みなそれぞれに味わい深いものです。</p>	